

「受診のハードルを低く」 幅広い年代に対応する精神科医

公認心理師と連携しながら行う心理カウンセリングで患者を支援



困っている患者さんが
自分の診察や処方した薬で良くなり
感謝されることがとても嬉しいです

Ari メンタルクリニック

院長 田中 有咲

仕事や人間関係の悩みからメンタルに不調を抱える人々が多い昨今。そんな人々に寄り添い救いの手を差し伸べるのが、東京都大田区蒲田に位置するAriメンタルクリニックだ。同院を率いる田中有咲医師は、年齢や疾患に関わらず、幅広く診察を行っている。昭和大学医学部卒業後、昭和大学附属烏山病院にて研鑽を積んできた。また産業医として活躍していた経験を活かし、働き盛りの世代が抱える悩みにも向き合っている。

どのような悩みを抱えた患者でも分け隔てなく接する田中院長の、医療に対する想いから今後の展望までを詳しく伺った。

大学での授業を通じ精神科の魅力を知る やりがいを持って働く先輩に憧れ開業を決意

田中院長が医師を志す決心をしたのは高校時代のことだ。進路について悩んでいた時、同じく医学部を目指す友人や両親からの後押しもあり、猛勉強の末、晴れて昭和大学医学部への入学を果たした。

そんな田中院長が精神科と出会ったのは、当時受講した統合失調症に関する授業がきっかけだった。

「一般的な疾患の主訴は頭痛や腹痛といったものです。しかし統合失調症の場合、たとえば『幻聴が聞こえる』といった主訴があることを知り、独特で興味深いと感じました」

治療過程としても、薬物療法からカウンセリング、生活習慣の改善等多岐に亘る。このように治療において試行錯誤が求められることに対し、田中院長はかえって魅力を感じたという。

大学卒業後、田中院長は昭和大学附属烏山病院精神科に入局。中でも長く在籍していたのは認知症病

棟だった。ここでは患者だけでなく、患者家族とコミュニケーションを取る機会も多かったため、上司と相談しながら日々試行錯誤して取り組んでいた。

「患者さんに治療について説明する際は、良い面だけでなくリスク面もきつちりと説明する、インフォームドコンセントの大切さを知りました。上司だけでなく周囲の看護師さんからもアドバイスをもらう等、学びの多い充実した日々を送りました」

困難な事例であっても、周囲の力を借りながら一生懸命に取り組んできた田中院長。そんな中、年の近い先輩がクリニックを開業する。

「やりがいを持って働く先輩の姿に憧れるようになり、自分も開業を決意しました。持ち前の行動力を活かして、すぐに開業の準備にとりかかりました」

こうして満を持してAriメンタルクリニックを開業。明るい印象を受けるパステルカラーや、自律神経失調症に効果的なアロマの設置等、まるでサロンのような印象を与える内装は、「通院してもらいやすいように」という田中院長の思いが元になっている。

「開業して間もない頃は、慣れないクリニック業務に苦戦することもありました。ですがお陰様で診察に慣れてきたということもあり、より多くの患者さんに受診してもらえよう環境を整えています」

産業医の経験を活かし働く世代の悩みに向き合う 診察体制に散りばめられた田中院長の思いやり

開業前は産業医として活躍していた田中院長。実際の職場環境に触れ、社員と面談を行うことで、働く世

代が抱える悩みに向き合ってきた。開業した現在も、人間関係や仕事の悩みを抱える20〜30代の患者が多く訪れるため、産業医の経験を活かしながら診察に当たっている。

「特に多いのは適応障害の患者さんです。仕事やプライベートにおける環境の変化等がストレスとなり、うつ状態、不安感の表出に繋がります。そうした場合は刺激から離れてしっかりと休んでもらうことが大切です。また甲状腺の機能低下や重度の貧血が原因となっている場合もありますので、必要に応じて大病院へご紹介することもあります」

診察においては、患者に満足のいく医療を提供できるよう、事前問診を実施。

「患者さんの中には緊張して上手く話せない、という方もいらっしゃると思います。そこで事前に伝えたいことをじっくりと書いてほしい、という思いから事前問診票をご準備しております」

診察予約については電話ではなくネットで受け付けている。予約で緊張することなく、気軽に受診してもらいたいという田中院長の心遣いの表れだ。

「限られた時間の中で患者さんの診察を行っていきます。初診の場合は今後の治療方針の決定も行うため、時間が長くなってしまいがちです。ですがこの予約システムが上手く機



産業医の経験も活かしながら診察に当たっている同クリニック

能しているので、診察の効率化にも役立っていますね。もちろん、自分の中でも時間配分をきっちり計算することを心掛けています」

また田中院長は週に1回、昭和医科大学横浜市北部病院メンタルケアセンターにおいて、外来診療のサポートも行っている。急性期の統合失調症や重度の鬱病など、緊急性の高い患者を受け入れる他、認知症の専門治療も実施しているため、大学病院時代の経験を活かし診察に臨んでいる。

またメンタルケアセンターでは、上司や後輩と話すことがリフレッシュになっているという田中院長。新しい薬や治療に関する情報交換も行うという。

「大学病院時代は、良い上司や先輩に恵まれたお陰で、仕事に関する悩みを乗り越えることができました。今でも話を通じて上司からパワーをもらっています」

公認心理師による充実の心理カウンセリング 医療面と心理面の両方から患者を支援

不安が強くネガティブな思考の癖が強い患者や、話を聞いてほしいという患者に対し、田中院長が勧めているのが心理カウンセリングだ。同院所属の公認心理師が患者一人ひとりの状況に合わせて対応していく。自費診療ではあるが、「気軽に受けてほしい」という田中院長の思いから、良心的な値段設定となっているのも特徴だ。

「医師による再診や薬の調整のみでは補いきれない部分をカウンセリングで行います。『気が向いたら寄っていく』くらいの気軽な気持ちで受けてもらえるように、敷居を低くすることを心掛けているのです」

このように心理カウンセリングに注力している田中院長。その理由の1つとして、日本の精神科治療における現状に対する懸念がある。

「日本では精神科治療の過程において、薬を多用しすぎていると言われています。実際に、これまで出会ってきた患者さんの中には、人生が変わってしまう程、副作用の影響を受け、悩んでいる方もいらっしゃいました。そのため、患者さんにとって必要な薬剤を調整することも医師の役割だと考えています」

たとえば、引越し等で他院から同院へ受診に来た患者のケース。引継ぎの処方箋を確認すると、薬を20種類程も服用していることがあるという。

「中には現在も継続しているのかどうか分からない薬もあります。そのため不要な薬はなるべく取り除くように努めます。体調は環境の影響等によっても変わってきますので、薬の調整は患者さんとして相談しながら進めていきます」

そんな田中院長を支えるのは優秀なスタッフたちだ。特に所属している公認心理師については、「とても助かっている」と田中院長からの信頼も厚い。

「診察や薬の処方だけでは不十分な部分を、公認心理師のスタッフたちがカウンセリングによって補ってくれるので、とてもありがたいです。お陰様で患者さんからの満足度が高く、カウンセリング希望の患者さんも日々増えています。薬物療法、精神療法



患者が通院しやすいように内装や予約方法にも気を配る

の両面で患者さんにサポートを提供できている実感があります」

患者だけでなく家族にも寄り添った医療を提供 笑顔で接しやすい雰囲気を中心に掛けて患者に接する

年齢や疾患等に関わらず、幅広く対応可能な田中院長の元には、日々様々な悩みを抱える患者が訪れる。そんな中でも、鬱病で同院に受診した70代の患者、そして付き添いである娘との出会いが印象に残っているという。

「元々はセカンドオピニオンとして受診にいられた患者さんでした。娘さん自身も親御さんのことで強く不安を感じていらつしやったのです。そして非常に熱心な方で、親御さんの現状や服用の状況について細かく教えていただきました。そんな娘さんの気持ちに応えるべく、こちらも丁寧に薬の説明を行いました」

受診後、娘から相談の電話が掛かってきた際は、田中院長はその都度しっかりと患者、そして娘と向き合っていた。

「それから3週間後、親御さんの症状が良くなっていきました。娘さんからも『先生のおかげです』と言っていたできました。セカンドオピニオンとしての受診でしたが、今では当院に通院して下さっています」

患者だけでなく家族の思いや不安に寄り添う、田中院長の誠実な対応が実を結んだケースだ。

そんな田中院長が診察の際に心掛けていることは「笑顔で接すること」。

「医師がよそよそしい態度だと患者さんを緊張させてしまうと考えています。特に精神科の患者さんは、自身の想いを伝えるのが難しいという方もいらつしやるので、話しやすい雰囲気を心掛けていますね。診察を

通じて、少しでも安心してくれる方が増えたら、と思います」

常に患者のことを第一に考え医療を提供している田中院長。そんな彼女にとって、医師の醍醐味とは「患者さんから感謝されること」だという。

「治療の過程において、時には大変なこともあります。ですが、困っている患者さんが自分の診察や処方した薬で良くなる。そして『本当にありがとうございました』と感謝されると、とても嬉しいですよ」

開業してから現在までを振り返り、「感謝していただけることが増えたように思う」と田中院長は語る。

「大病院時代と比べると責任は大きくなりましたが、その自分自身の力で患者さんが笑顔にできることが嬉しいですよ。上手く信頼関係を築けた患者さんも増えてきたので、やりがいを感じます。より様々な症状に対応できるように、これから見識を深めていきたいです」

患者の復職支援に向けて準備を進める 分院開業、法人化に向け今後も邁進していく

田中院長の診察を求め、日々多くの患者が訪れる同院。現在、診察や血液検査等は田中院長1人で行っているという。

「そのため、今後は看護師さんを始め、心理師や医療ソーシャルワーカー等、より多くの職種のスタッフさんに来ていただきたいです。役割分担をはっきりさせることで、より充実した医療が提供できるようになると考えています」

患者に対する更に踏み込んだ取り組みとして、復職支援にも注目している田中院長。

PROFILE

田中 有咲 (たなか・ありさ)

2018年 昭和大学医学部 卒業。
 2020年 昭和大学藤が丘病院初期臨床研修 修了。
 同年、昭和大学附属烏山病院精神神経科 入局。
 2022年 昭和大学大学院医学研究科 修了。
 2024年 昭和大学横浜市北部病院メンタルケアセンター 助教。
 2025年 Ariメンタルクリニック 院長。
 同年、昭和医科大学横浜市北部病院メンタルケアセンター 兼任講師。

資格

医学博士、精神保健指定医、精神科専門医、抗加齢医学会専門医、日本医師会認定産業医、日本精神神経学会認知症診療医、クロザリル処方登録医

所属学会

日本精神神経科学会、日本抗加齢医学会

原著

Effects of sleep on the gut microbiota and metabolome in patients with depression and anxiety: A prospective observational study Arisa Tanaka, Kenji Sanada, Katsuma Miyaho, Tomoyuki Tachibana, Shunya Kurokawa, Chiharu Ishii, Yoshihiro Noda, Shinichiro Nakajima, Shinji Fukuda, Masaru Mimura, Taishiro Kishimoto, Akira Iwanami 2023.12.20 PLOS ONE、COVID-19が起因による脳出血の一例(症例報告)田中有咲、清水勇人、宮保嘉津真、中村暖、中井文香、長塚雄大、花田智貴、岩波明 精神科.39(4):510-514.2021、ASDとADHDの臨床症状の相違点と類似点 田中 有咲、中川 茜里、富田 秋沙、幾瀬 大介、西川 晶子、内田 直樹、岩波 明、昭和学術会雑誌(2187-719X)82巻2 Page86-93(2022.) DOI: 10.14930/jshowaunivsoc.82.86

INFORMATION

Ariメンタルクリニック



URL <https://aricli.jp/>

所在地 〒144-0052 東京都大田区蒲田5-28-18 京急醍醐共同開発ビル2F
 TEL 03-6715-8973 FAX 03-6715-8974

アクセス JR京浜東北線「蒲田」駅より徒歩5分
 京急急行電鉄「京急蒲田」駅より徒歩5分

診療時間 <火・水・金・土> 8:30~12:30、13:30~17:00
 <休診日> 月・木・日・祝

診療科目 心療内科・精神科、美容点滴・美容内服

設立 2025年

院長挨拶

はじめまして。この度はご縁があり、大田区蒲田駅の近くに心療内科・精神科専門のクリニックを開業することになりました。私は大学卒業後、大病院で臨床と研究ともに研鑽を積んできました。また様々な企業の産業医経験もあります。患者様のお話を伺いながら、お悩みへの解決方法を一緒に考えていきたいと思っております。効率よいスムーズな診療を心がけております。どうぞよろしくお願いたします。



「様々な症状に対応できるよう見識を深めていきたいです」

「患者さんの中には休職されている方も多いです。そんな患者さんの復職に向け、生活リズムの立て直しといった支援が求められていると考えています。これからもより幅広いお悩みに対応できる体制作りを行っていききたいです」

そんな同院の今後の展望として、田中院長は分院の開業、そして法人化も視野に入れているという。

「分院の開業まで時間は掛かるかもしれませんが、焦らずに進めていこうと思います。同じ精神科医の夫に分院の院長を任せられるのも良いですね。法人化という自分の夢に向かって、これからも努力を続けます」

明るく接しやすい田中院長の懇切丁寧な診察、そして受診しやすい体制が多くのお患者の支えになっているAriメンタルクリニック。現代社会になくはない同院の今後に期待が高まる。